

いのちの授業

3月8日に都立駒込病院感染症科の矢嶋 敬史郎医師による「いのちの授業」が行われました。練馬保健所予防課感染症係と駒込病院の診察室、そして大二中を繋いでのzoomによる講演会でした。

講演は矢嶋先生の専門である感染症、AIDSや人間の免疫、またAIDSについて話をされる中でLGBTにも触れられました。人間は目に見えないものを怖がるから攻撃したり排除したりする。それは病気であってもLGBTであっても同じ。病気には良い病気と悪い（恥ずかしい）病気があるわけでもないし、悪いことをしたから病気にかかるわけではない。そして、「病気や障害に限らず、それぞれの人には、それぞれに問題や特性（くせ）があります。仮に自分と合わないことがあっても、尊重しすぎたり、攻撃することなく、ただ『一緒に生きて』ほしいと思います。自分も大事に、相手も大事に」というメッセージを贈ってくださいました。生徒はしっかりと矢嶋先生のお話を受け止めて、授業の後のアンケートにはすばらしい感想を書いてくれた人がとても多かったです。一部ですが紹介させていただきます。



（講演を聞いて分かったこと・感じたこと）

- ・自分が知らない病気で日々苦しんでいることをあらためて実感しました。また、強い偏見に苦しんでいることも知りました。またLGBTについても理解が深まりました。だから今回の講演で学んだことを悩んでいる人の少しでも悩みが軽くなるように考えていきたいです。（1年）
- ・他の大人のひとと違って矢嶋先生は性的なこともストレートな表現で教えてくれたのでとても分かりやすかったし、聞いていても恥ずかしいと感じなかった。また、自分も自分の性別に違和感をもっているのに、LGBTのことを他の生徒にわかるように全校生徒に向けて話してくれたのがとてもうれしかった。（1年）
- ・最後のまとめの「自分も大事に、相手も大事に」という言葉で、自分を大事にするのが一番優先で、それができたら相手のことを考えるということがわかった。（1年）
- ・LGBTやHIVの人たちは差別を受けながらも必死に生きていて、自分から見た「普通」は自分から見たものであって、他の人が少し違うからといって、何が悪いんだろう。差別は病気や心のこと、人種・仕事・年齢・どんなものであってもあってはいけなくて、1秒でも早くなくさないといけない。皆が正しい知識と受け入れる心をもっていればすぐに変わる、と思いました。早く差別をなくしたいし、もっと色々なことを知りたいです。（1年）
- ・どんな病気やくせがあっても、差別はせず共に生きていくことが大切なんだと感じました。どんな悩みがあっても、良い方向に開き直って生きていけば大丈夫と思うことで、「心も楽になるのかなと思いました。（1年）
- ・矢嶋先生の講話を聴いて自分が知らないからと言って病気の人を差別する人は多く、その人たちによって沢山の人が傷ついていることがわかりました。差別や偏見をしないためにも、正しい知識を身につけることが大切だと感じたので、色々なことに広く関心を持って、学習していきたいです。（2年）
- ・LGBTは自分の近くにもいると思うし、もしそういう人がいても何もおかしくないと思ったので、そういう子がいても自分はその子を支えたり仲良くできる存在でいたいと思いました。LGBTも一つの個性だと思います。これまで知らなかったことを知れて聞いていて知識が広がりました。（2年）
- ・様々な人がいるなかで人と違うから「おかしい」と思うのではなく、それをその人の個性とみてあげて、一緒に生き支えてあげられる…そんな人になりたいと思いました。（2年）

- ・病気は自分の生活習慣が悪いなどという理由だけでなく、かかるものはかかってしまうということをしっかり知れた。病気を持つ人を特別扱いしすぎるのも逆に攻撃することも、何も生まないから自分は何にもできなくても、話をしっかり聞いたり、寄り添えるような人になりたいと思った。私の友達にも性別について困っている人がいるので、今回のお話はすごく勉強になった。色々な人がいるので、今回のお話はすごく勉強になった。色々な人間が自由に意見を言い合い、理解しあえる世の中になれば良いと思う。(2年)
- ・人間の多様性はすごいなあと思った。病気には偏見がつきまわっていることも知った。医療職には思ったよりも多くの種類があることを知った。たとえどんなことがあったとしても、共生しなくてはならないと感じた。病気にかかっただけで精神的に苦痛を感じる人がいることを知った。(2年)
- ・エイズの名前は知っていましたが、こういった病気なのかどういふことで感染するのかを知らなかったのも、それらを色々知れました。LGBTのことなど知らないことが多かったのも考えていかなければならないと思いました。(2年)
- ・やっぱり人は自己中心で見えない怖いものや自分には回ってきてほしくないものだと、自分を守るために相手を攻撃してしまう。偏見を持つ人もいれば、持たれる人もいます。その中でみんなで分かり合っていく、これが今一番の課題だなと思いました。命は本当に言葉にあらわせないようなくらい大事なんだとあらためて思いました。(2年)
- ・差別というものは対象に対する認知が低いから起こってしまうということ。自分の主観だけで相手を判断しないことが大切であること。(3年)
- ・人は自殺などをすれば一瞬で命を捨てることはできるが、苦しんでいる人たちに失礼だと思った。私も命を大切にしていきたい。(3年)
- ・セクシャリティーなことも自分一人で抱えこまないで相談することが大切で、病気に対しては変な偏見を持たずに、病気にかかってしまった人をウイルスあつかいしないように気をつける。(3年)
- ・前から疑問に思っていた LGBT についてや性感染症についてよく知ることができた。(3年)
- ・一人一人個性があるということは、とても深い意味があると感じた。また一人一人個性があるからこそ差別と言うことばを常に意識しなければならぬと思った。(3年)
- ・人それぞれ違いがあり、その違いは決して恥ずかしいことではないことを学んだ。(3年)
- ・病気は誰にでもかかるもので、病気についての偏見や差別が、病気と同じくらいその人を苦しめていることがわかった。今日学んだことを生かして、自分も恥じない行動をしていきたい。(3年)
- ・性感染症と LGBT がつながっているとは知らなかったのも勉強になりました。また虹色のリボンも LGBT だけでなく、人種等を含めて支援しているものだと知りました。日本の学校ではまだまだジェンダーについても、性感染症についても他の海外の国と比べて遅れていると思っていたので、今日先生から中学生の私たちに丁寧にお話をさせていただいて嬉しかったです。ありがとうございました。(3年)
- ・今世界で重要視されている LGBT 問題についても知ることができたし、なにより自分が大事と言う言葉が本当に心に残った。話もとてもわかりやすく、受けて良かったと思える授業でした。(3年)
- ・私は性のことについて全然知らなかったのも、へえと思った。聞くのが恥ずかしいと思ったけど、そういうことで悩んでいる人がたくさんいて、つらい思いをしているのだと思うと、しっかり聞かなければならぬと思った。この話を通して、悩んでいる人を受け入れて、大切な人には向き合ったり、寄り添えるような人になりたいと思った。(3年)
- ・自分らしく生きようと思えました。差別せず、全てを受け入れるのは難しいと思うが、それでも人を傷つけないようにしていこうと思いました。(3年)